

取得戦略計画の概要（F-15能力向上）

1 取得プログラムの目的

F-15近代化改修機について、電子戦能力の向上、スタンド・オフ・ミサイルの搭載、搭載ミサイル数の増加等の能力向上を計画的に推進する。

2 取得プログラムの範囲

（1）取得プログラムの方針

- ア 能力向上の取得にかかる部分及び当該維持経費の管理を徹底する。
- イ FMSおよび国内契約の管理を確実に実施し、日米官民の密接な調整によりプロジェクトを推進する。

（2）取得プログラムの目標

- ア 能力向上改修をF-15近代化改修機68機に対し実施する。
- イ 必要な施設等を整備し、運用基盤を確立する。
- ウ 訓練用シミュレータを取得し、教育・訓練態勢を確立する。

（3）取得の方針

国内企業が取得できない搭載機器等についてはFMS調達によるものとし、航空機への搭載のための機体改修は国内企業により実施する。

3 ライフサイクルコスト（LCC）

6,465億円（暫定値。詳細は付紙表2を参照）

4 ライフサイクルを通じて考慮すべき事項等

（1）FMSと国内企業との直接契約の整合

FMS及び国内企業の責任範囲を明確にするとともに、契約の履行状況を適時に把握し、双方の改修計画の整合を図る。

（2）価格高騰の抑止

日米調整会議を通じて情報収集を実施するとともに、先行的な対策を講じることで急激な価格高騰を抑止する。

表1 LCCの見積

共通的事項	<ul style="list-style-type: none"> ・見積範囲は能力向上関連の取得及び当該部分の維持整備にかかる部分 ・物価変動を考慮 ・消費税率は10% ・為替レートは、令和4年度支出官レートの108円/ドルを適用 ・機体68機を対象 ・対象期間は、令和元年度から令和30年度まで。 	
段階別	運用・維持	<ul style="list-style-type: none"> ○ 予算要求額、米国政府及び国内企業からの見積資料から算出 ○ 契約実績のある場合は、契約実績から算出

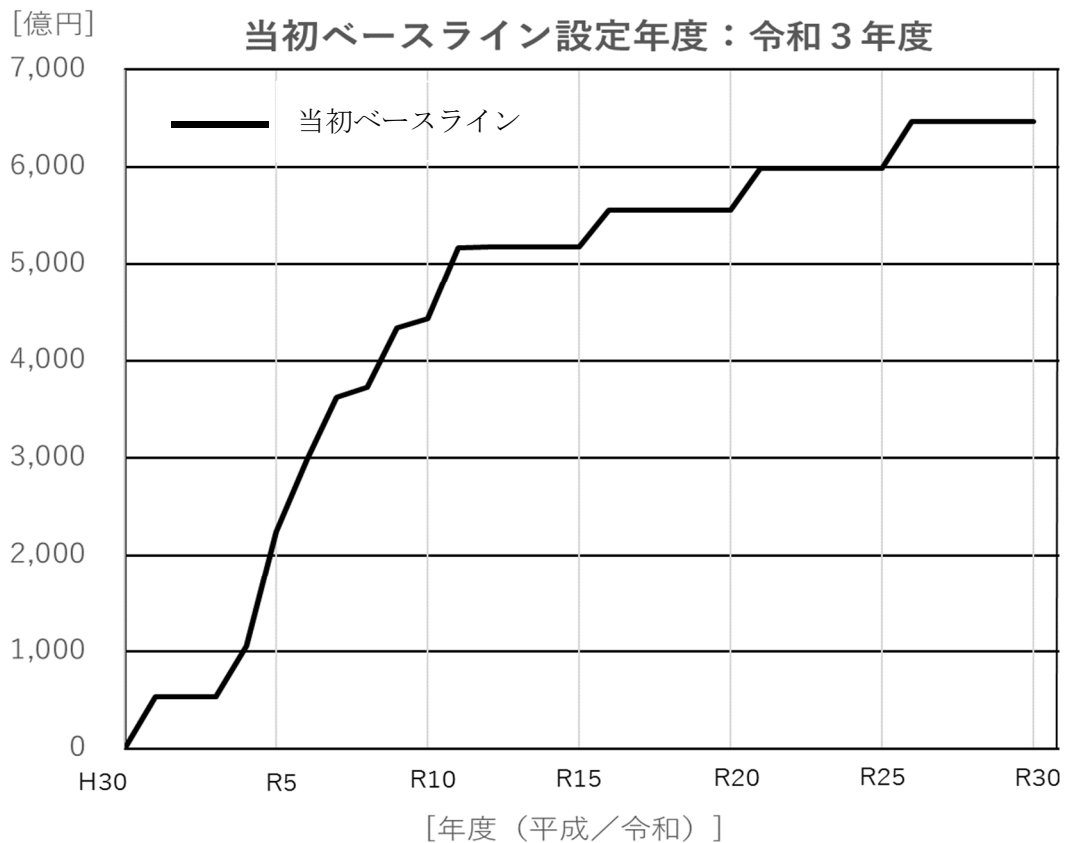


図1 LCCのベースライン

表２ CBS総括表（暫定値）

[億円]

レベル1			レベル2		
項目名	金額	比率	項目名	金額	比率
構想段階	-	-	構想検討	-	-
研究・ 開発段階	-	-	技術研究	-	-
			試作品費	-	-
			官給用 装備品	-	-
			技術試験	-	-
			実用試験	-	-
試験設備	-	-			
量産・ 配備段階	-	-	初度費	-	-
			航空機	-	-
運用・ 維持段階 (R1～R30年代)	6,465	100.0%	試験等	173	2.7%
			補用品	*	*
			修理役務	*	*
			部隊整備 (役務)	-	-
			改修	5,653	87.4%
			整備用器材	*	*
			弾薬等	-	-
			支援器材	-	-
			施設	24	0.4%
			教育・訓練	404	6.2%
			燃料費等	-	-
			技術支援費	-	-
PBL	*	*			
その他	210	3.3%			
廃棄段階	-	-	航空機	-	-
			施設	-	-
合計	6,465	100.0%		6,465	100.0%

注1：計数は、四捨五入によっているので計と符合しないことがある。

注2：金額は、現時点における一定の前提の下の見積りであり、今後、変更がありうる。

注3：*は、現在、修理等の効率的な方法について検討中であるため、明確になり次第記載する。

用語の定義

当該取得戦略計画で使用する用語の定義は下表の通りとする。

表 用語の定義

番号	用語	定義
1	C B S	Cost Breakdown Structure のことであり、ライフサイクルコストを階層に区分し、構造化したコスト構成表をいう。
2	P B L	Performance Based Logistics のことであり、維持整備に係る成果の達成に応じて対価を支払う契約方式をいう。
3	ライフサイクルコストのベースライン	基準時点における情報をもとに、直角座標において、横軸に年度を、縦軸に経費をとり、ライフサイクルを通じて、年度毎に、装備品等の取得を行うのに必要な経費の当該年度までの累計額を算定して表示した点を結んだ曲線で、ライフサイクルコストの管理の基準となるものをいう。
4	ライフサイクルコストの当初ベースライン	最初に設定したライフサイクルコストのベースラインをいう。